



「おそらく、2度目は登れない山」

半澤 淳一

NHK-BS番組「グレートトラバース」で《100名山ひと筆書き》を田中陽希さんが2014年に達成し、翌年には《200名山ひと筆書き》達成の偉業。『凄い人が居るものだなあ』と、ビックリさせられたのはつい最近です。

100名山を目指すにしても、普通の人だったら、ガイドブックを見ながら休日を利便して、何年かかけて登頂を果たす、というパターンが殆どでしょう。

私も、正直なところ、深田久弥氏の本に触発されて「100名山ハンターを目指す」ことを思い描いた時期がありました。

が、それもほんのいつか。『お山は100名山だけに非ず』と改心しました。

とはいえ、山に関係する書籍やネットでは、相変わらず100名山が取り上げられる機会は多いようですね。

さて、私が今でも印象深い山は、その100名山の範疇の剣岳です。

深田久弥氏の表現を借りれば、《岩と氷の殿堂》という素人が登ったりしては駄目そうな山なのですが、私が登ってしまったのは2002年8月下旬。単独行でした。

この時は新宿発扇沢行の深夜バスに乗り、室堂から入ってその日は剣山荘泊。

驚いたのは、この山小屋には風呂がありました。『近くに雪渓があるので、水には不自由しない』とは小屋の支配人の言葉。

もう一つ驚いたのは、日が暮れてから豪雨になったことで、『もしかしたら、明日の登頂はできないかもしれない』と不安な気分で寝入りました。

が、しかし、翌朝は雲一つない晴天！
朝飯もそこそこに、サブザックを背負って剣山荘を6時にスタート。

ふと、不安になったのは、登山路で誰にも会わなかったことです。『ルートは間違っていないはずだが』などと、いつか臆病風にさらされました。

例の難所ですが、《カニの横這い》は確かにアドレナリン噴出のスリルでした。



実は、やっと追いついた先に行く男性が手前で立ち往生していました。

少し待っていても、足を踏み出しそうにないので、『お先にごめんなさい』。

わずか20mぐらいの距離ですが、まさに断崖を這うように進むのです。足の置き場は10cm有るか無いか。谷側は怖くて覗けませんでした。

次の難所は《カニの縦這い》。

ここはアンカーボルトや鎖がしっかり整備されていて、不安感はありませんでした。

が、登る距離は50mほどだったでしょうか、脇見しないで登ったので、よく覚えていません。

そして、《カニの縦這い》を過ぎると一時間足らずで山頂。

山頂に私が立った時、そこには誰も居ませんでした。やがて後から男性2人、その後女性が1人。

しきたり通り、山頂の小さな祠に、無事登頂のお礼と下山の無事を祈願。

この日は本当に好天に恵まれ、360度の展望はみごとでした。

深田久弥氏の本にもたびたび表現されていますが、私も『下山するのがもったいない山頂での気分』でした。

そして、6時間後、室堂に下立った時は『100名山の半分を踏破したような充実感』に浸っていました。

剣岳を未体験の方がいらっしゃいましたら、是非ぜひチャレンジされますように。

私は？ たぶん2度目は無理だと観念しています。